

やめて！ポイ捨て 不法投棄



緑川水系に不法投棄された、大量のダイオキシンの葉やレジ袋など

町内の美しい景観が汚されています。ポイ捨てや不法投棄が後を絶たず、町内を流れる清らかな河川への不法投棄も数多く報告されています。

ペットボトルや缶類などはもとより、生ゴミなども腐敗により水質を悪くします。

ポイ捨てなど不法投棄が及ぼす影響は町内だけではなく、河川の下流域においても被害は甚大です。水質は悪くなり、不法投棄ゴミは大量に流れ着き、地域住民の手作業による大掛かりな清掃作業を余儀なくされています。

さらに、河川流域に生息する動植物に影響を及ぼし、農林漁業や下流域で予定される高潮堤防工事にも支障がでます。



(緑川下流に流れ着いたゴミと、それを手作業で拾われている下流域住民の方々：写真提供国土交通省緑川下流出張所)

河川の上流域に位置する山都町民一人ひとりがモラルを持ち、不法投棄のゴミなどで下流域に悪影響を及ぼすことがないように、ゴミを捨てない、捨てさせない心がけとマナーを持ってください。

【美しいまちづくり推進員】

住民・事業者・土地などの占有者・町が一体となって、環境美化に努めることにより、山都町の自然環境を守り、清潔で美しいまちづくりを一層進めるため、平成18年12月に「山都町美しいまちづくり条例」を制定しています。

この条例に基づき、自治振興区ごとに美しいまちづくり推進員を選出しています。推進員は、河川の環境の監視、廃棄物の不法投棄及びポイ捨ての監視、環境保全に関する広報や啓発活動の協力などを行っています。

自治振興区名	氏名	自治振興区名	氏名
御岳振興会	藤山 淳	浜A自治振興会	松岡 昭二
御岳西部自治振興会	後藤 淳平	清和中部自治振興区	山村 泰之
白糸第一自治振興会	西田 興誠	朝日自治振興区	戸高 義治
菅地域振興会	山村 清光	小峰自治振興区	倉岡 正剛
白三校区自治振興区	辰本 清音	緑川・木原谷自治振興区	堀 一誠
下矢部東部自治振興区	坂本 達矢	馬見原自治振興区	平山 洋一
下矢部西部自治振興区	渡邊 孝全	大野自治振興区	栗屋 正博
中島西部自治振興区	坂本 潮	菅尾自治振興区	江藤 節生
中島東部自治振興会	井手 修二	花上自治振興区	甲斐 孝男
島木自治振興会	嶋村 繁昭	二瀬本自治振興区	後藤 眞弓
下名連石自治振興会	荒木 貢	橘地区自治振興区	有働 哲文
御所自治振興区	伴 克己	東竹原自治振興区	甲斐 鉄志
浜町C地区自治振興会	中原 秀行	長谷自治振興区	後藤 勝男
浜町B自治振興区	岩見 兼	上差尾自治振興区	工藤 則隆

健診受診率の向上に向けガンバロー

平成20年度に始まった山都町健康づくり推進員制度。28の自治振興区から1人ずつ選出されています。主な活動として、特定健診の受診率向上への取り組み、各自治振興区での学習会など地域住民の健康づくりをサポートしています。

6月4日(月)に今年度第1回会議が矢部保健福祉センター千寿苑で開催されました。この中で、平成23年度に特定健診受診率が向上した優良自治振興区が表彰されました。

○最優秀賞 朝日自治振興区

地区内の受診率が73.5%と町内最高。自治振興区のままさまざまな集みや役員会などで、常に健康づくり推進員が保健師と協力して健診の説明を行い、受診率の向上に努めました。

○優秀賞 緑川・木原谷自治振興区(受診率72.1%)

○敢闘賞 島木自治振興区(受診率70.8%)
さらに、躍進賞として上差尾自治振興区、下矢部東部自治振興区、下矢部西部自治振興区、中島西部自治振興区が表彰されました。

日本では、医療費の増加が大きな問題になっており、生活習慣病など、予防可能な病気の発症を抑えることが求められています。国は、特定健診の受診率を「平成24年度までに65%」という目標を設定し、達成しなければ平成27年度から保険料増額という保険者へのペナルティーが課せられる可能性があります。

それ以上に、病気を早期に見出すとともに、自分自身の体を正しく知り、病気のリスクを未然に防ぐために、健診の受診は重要です。



赤ちゃんのうんちの色をよく見て!

生後間もない赤ちゃんのうんちの色がうすくなくて、淡い黄色やレモン色、灰色などになったら「胆道閉鎖症」という病気が疑われます。

胆道閉鎖症は、肝臓と腸をつなぐ胆管がつまり、肝臓でつくられた胆汁という黄色い液を腸に出すことができなくなる病気です。日本では、生まれた赤ちゃんの1万人に1人がかかるといわれています。

その症状は、黄疸(皮膚や白目の色が黄色くなる)があり、「うんち」の色がうすい黄色や白っぽくなります。治療には手術が必要です。できるだけ早く見つけて、治療を行うことがいとされています。検査は小児科でもできますが、治療や手術は専門の医療機関(小児外科)で行われます。

早期発見には日ごろの観察が重要です。赤ちゃんの「うんち」の色をよく見てください。「うすい黄色」や「白っぽい色」の場合は、すぐに小児科や小児外科の診察を受けましょう。

便の色を調べる「便色カード」は、平成24年4月以降に交付した母子健康手帳に付いていますので、ご活用ください。

*胆道閉鎖症以外でも、ウイルス感染や消化不良などでうんちの色が薄くなることもあります。

*生後1か月を過ぎてからは注意が必要ですが、生後3か月くらいまでは注意が必要です。

「おかしいな」と思ったときは、迷わずかかりつけの先生まで相談してください。